



# 開発途上国・新興国等における医療技術等 実用化研究事業について

## -現地医療ニーズを満たす医療機器開発-

---

令和5年12月

国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)

# 説明事項

- 事業説明
- 今年度公募概要ご紹介（採択済み）
- 本事業が求める課題（今年度公募を例として）

# 説明事項

- 事業説明
- 今年度公募概要ご紹介（採択済み）
- 本事業が求める課題（今年度公募を例として）

# AMEDの位置づけ



# 開発途上国・新興国等における医療技術等実用化研究事業



現地におけるニーズを十分に踏まえた医療機器等の開発や、日本の医療技術等の展開に資するエビデンスの構築を推進する事で、途上国・新興国等の公衆衛生上の課題の解決に貢献し、日本の医療の国際展開に貢献する。

## 途上国・新興国等において実施

- ✓ 日本とは異なる公衆衛生上の課題
- ✓ 医療機器に対するニーズは日本と異なる可能性



相手国保健省・規制当局等と情報連携

医療機器等事業化

開発初期段階

開発後期段階

バイオデザイン等のデザインアプローチ

現場観察

ニーズの  
発見

開発コンセプト  
確立

開発・改良  
臨床評価

製品開発

開発事業者

開発途上国や新興国向けの技術開発を行い海外展開を目指す民間企業

開発サポート機関（東京大学）

- ✓ バイオデザイン等デザインアプローチによる試作品作製支援
- ✓ 受入れ先病院との契約手続き支援
- ✓ 事業戦略の策定支援 等

支援事業者

- ✓ 複数の専門家による多面的コンサルティング 等









## 具体的な活動

デザインアプローチ




採択者講習	<ul style="list-style-type: none"> <li>採択後、現地でのニーズ把握に先立ち、<b>日本の病院での臨床現場観察実習を含むデザインアプローチ</b>についての講習を実施する。</li> </ul>
対象国領域選択	<ul style="list-style-type: none"> <li>途上国・新興国において進出するメリット・潜在的リスクを洗い出し、進出の可否の判断基準に必要な情報を明確にする。</li> </ul>
ニーズ探索	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>臨床現場に入り込み観察</b>を行い、<b>課題を特定</b>する。</li> <li>課題を理解することで<b>ニーズへ落とし込む</b>。</li> </ul>
ニーズ絞り込み	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>洗い出されたニーズを一定基準を設定してふるい分ける</b>。</li> <li>自社の技術・戦略の方向性との比較による<b>ニーズの優先順位づけ</b>を行う。</li> </ul>
コンセプト作成	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>プロトタイプを通じて解くべき問いの明確化</b>を行う。</li> <li>プロトタイプ製作後、ニーズにどれだけ答えられているかで、<b>コンセプトを評価</b>する。</li> </ul>
開発戦略・事業化計画立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術的課題の特定と優先順位づけや、臨床的な<b>目的設定・試験モデルの選択・実施</b>などの立案する。</li> </ul>
開発・改良臨床評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要となるエビデンスの特定や<b>マーケティング・販売戦略</b>の策定を行う。</li> </ul>
承認申請	<ul style="list-style-type: none"> <li>開発・改良や臨床研究を実施する。</li> <li>相手国保健省・規制当局等と情報連携</li> </ul>
現地上市	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地上市</li> </ul>



# 採択課題一覧（実用化研究） 1/2

	採択事業者 (研究開発期間)	課題名	対象国における公衆衛生上の課題	開発実施国
1	シミックホールディングス株式会社 (H29～H30年度)	開発途上国・新興国のニーズに合わせた、日本発バイオマーカーの簡易診断キット開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 急速に広がるNCD への対策</li> <li>✓ 不十分な医療インフラ下での医療提供</li> </ul>	
2	日本光電工業株式会社 (H29～H31年度)	安全なバッグ換気のためのモニタ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 不十分な医療インフラ下での医療提供</li> </ul>	
3	株式会社メトラン (H29～H31年度)	ベトナム国向け High-flow nasal cannula機器の開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 不十分な医療インフラ下での医療提供</li> </ul>	
4	株式会社 日本医療機器開発機構 (H30年度)	虚血性心疾患のプライマリヘルスケアに対応するウェアラブル心電計診断システムの開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 急速に広がるNCD への対策</li> <li>✓ 不十分な医療インフラ下での医療提供</li> </ul>	
5	栄研化学株式会社 (H30～R3年度)	マラリア原虫感染者発見率向上のための種特異的超高感度遺伝子検査システム開発研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ NTDをはじめとした感染症対策</li> </ul>	
6	株式会社ライトニックス (R1～R4年度)	開発途上国のニーズに合わせた樹脂製簡単ワクチン投与デバイスの開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ NTDをはじめとした感染症対策</li> </ul>	
7	帝人ナカシマメディカル株式会社 (R1～R3年度)	外傷性骨折後変形治癒症例に対するカスタムメイド治療法の研究開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 都市化、産業化に伴う交通事故外傷、公害病への対応</li> </ul>	
8	株式会社OUI (R2～R4年度)	新眼科医療機器スマートアイカメラを用いた、開発途上国・新興国における、予防可能な失明と視力障害の根絶方法の開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの促進・普及</li> <li>✓ NTDをはじめとした感染症対策</li> </ul>	

## 採択課題一覧（実用化研究） 2/2

	採択事業者 (研究開発期間)	課題名	対象国における公衆衛生上の課題	開発実施国
9	エルピクセル株式会社 (R3～R5年度)	肺感染症の検出・重症度判定に向けたX線画像診断AIの開発	✓ NTDをはじめとした感染症対策	
10	BioSeeds株式会社 (R3～R5年度)	現場使用可能な新型コロナウイルス変異株RNA検出システムの開発と開発途上国・新興国での性能評価	✓ NTDをはじめとした感染症対策	
11	メロディ・インターナショナル株式会社 (R4～R6年度)	周産期死亡低減を目指したモバイル型SNS連動胎児モニターの開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 不十分な医療インフラ下での医療提供</li> <li>✓ ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの促進・普及</li> </ul>	
12	株式会社タウンズ (R5～R7年度)	結核の治療モニタリングに対応する抗原検査システムの開発	✓ NTDをはじめとした感染症対策	

## 採択課題（開発サポート研究）

	採択事業者 (研究開発期間)	課題名
	東京大学 (R3～R7年度)	バイオデザインアプローチを用いた開発途上国・新興国の公衆衛生の課題解決に貢献する医療機器開発サポートシステム「グローバル・バイオデザイン」の確立



# 現地政府・KOLを交えた意見交換会 @主要4カ国

## 開催目的

現地のKOLや政府機関および関係者を巻き込んだワークショップを行いネットワークを構築

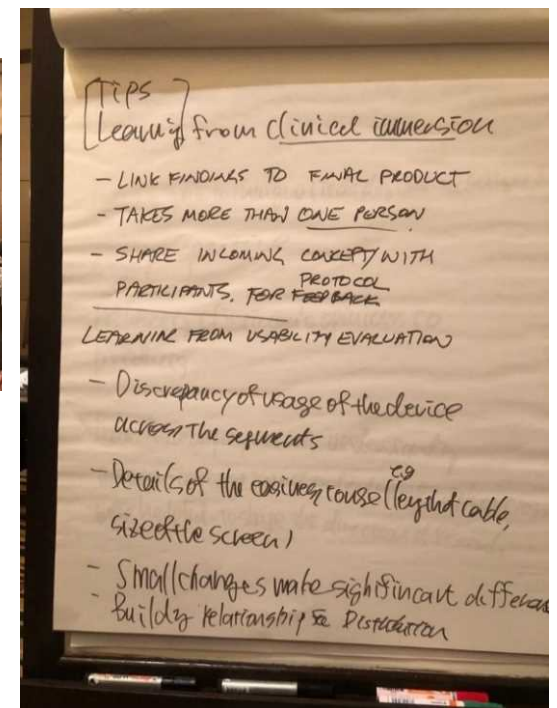
## 主な参加者

- 現地のKOL  
(key opinion leader)
- 保健省元副大臣
- 現地日本国大使館担当者
- JETRO現地オフィス関係者
- JICA現地オフィス関係者

- 厚生労働省
- AMED(PS/PO含む)
- 開発事業者
- 支援事業者

## 主なアジェンダ

- 事業概要説明
- 各社・各研究開発課題の紹介
- デザインアプローチを用いた医療機器開発の紹介
- 現場の入り込みから得られたニーズ仮説共有・議論



タイ・ベトナム・インドネシア・マレーシアにて開催

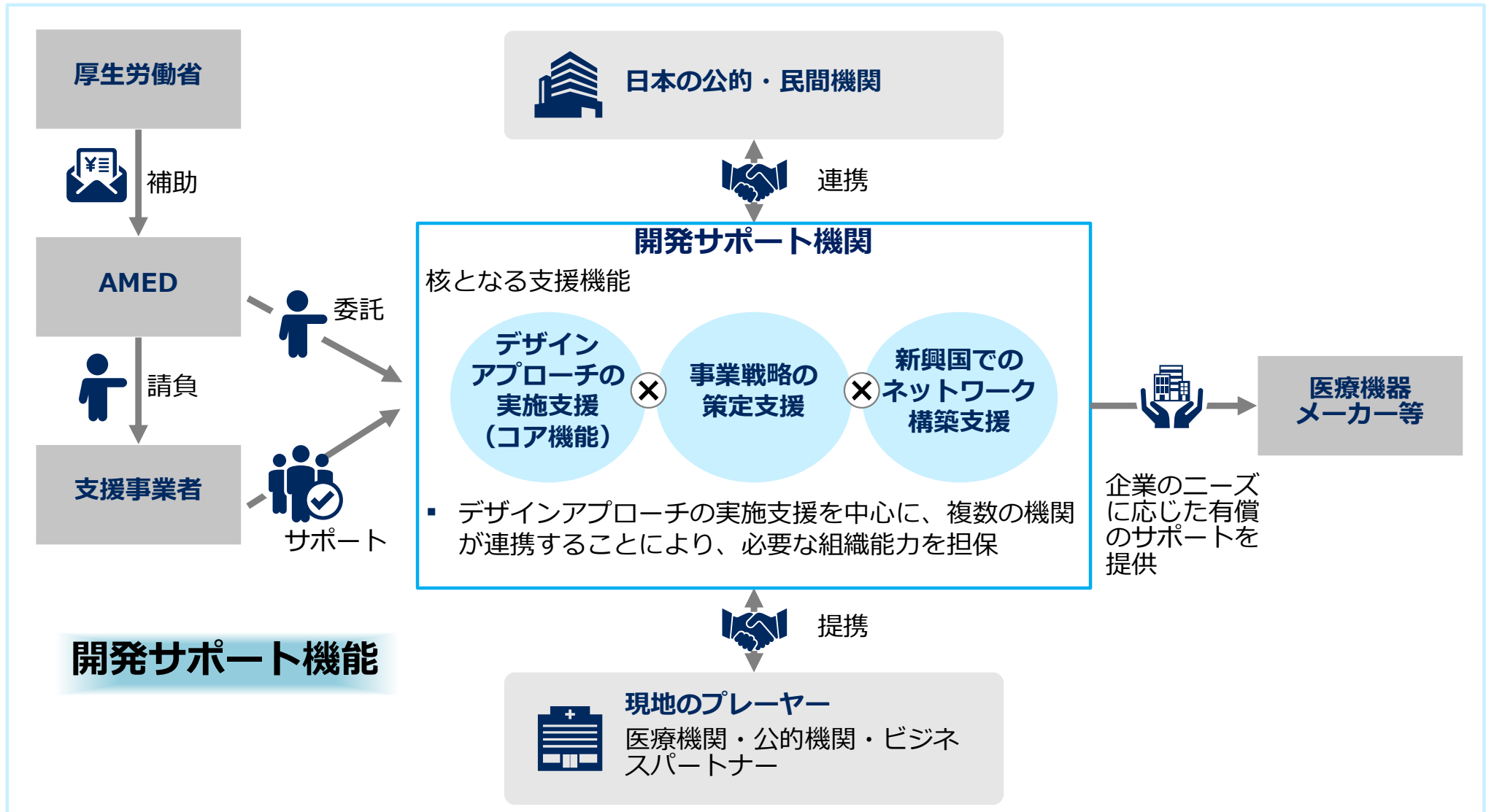


令和5年11月 @ジャカルタ



# 開発サポート機能の社会実装の実現を目指す姿

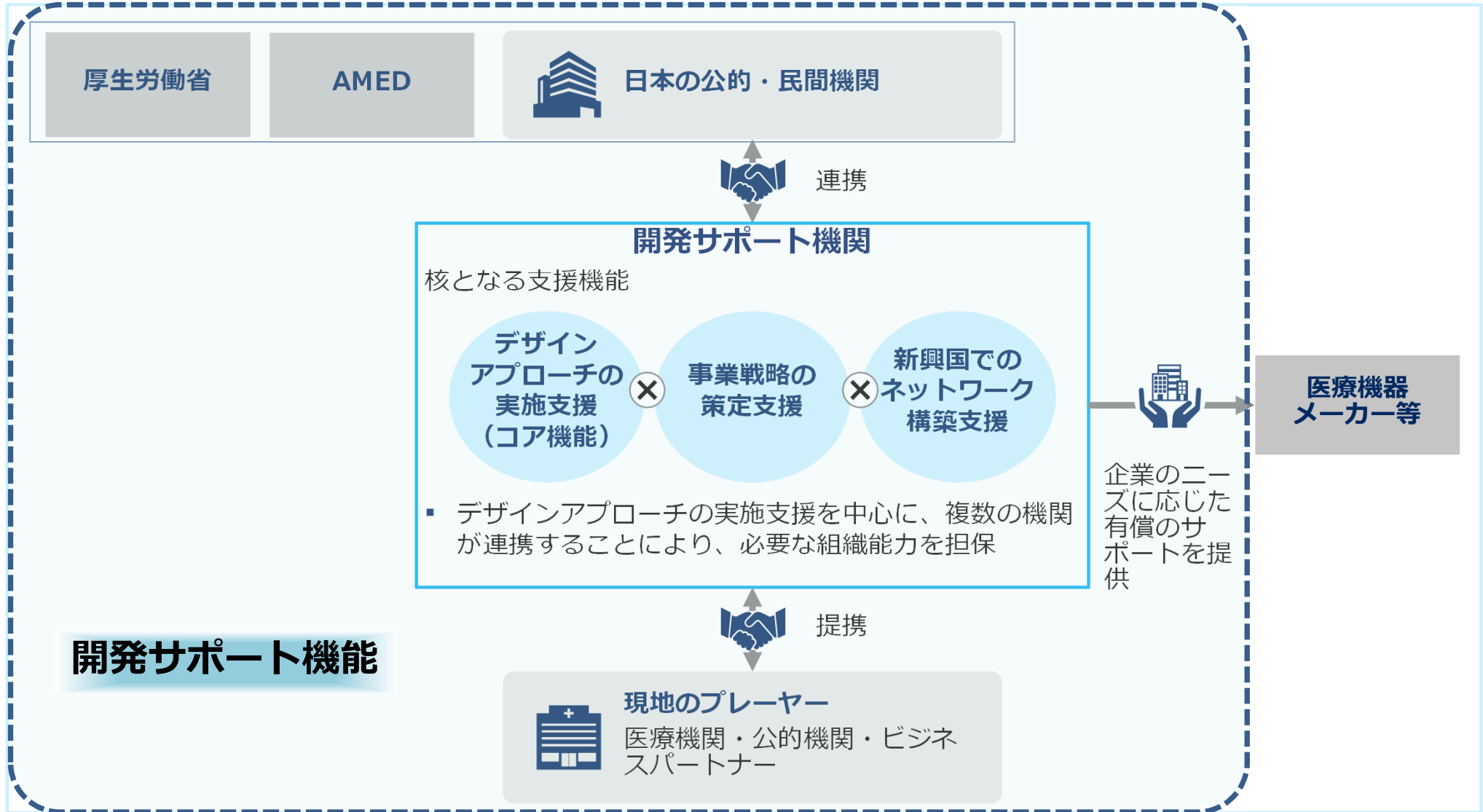
## (事業期間中：R3～7年度)



- 開発サポート機能は、核となる3つの組織能力を、複数機関の連携体制において確保することが考えられる。

# 開発サポート機能の社会実装の実現を目指す姿

(R8年度～)



- 開発サポート機関は、核となる3つの組織能力を、複数機関の連携体制において確保し、開発サポート機能の中核をなす。

# 説明事項

- 事業説明
- 今年度公募概要ご紹介（採択済み）
- 本事業が求める課題（今年度公募を例として）

#	公募研究開発課題名	研究開発費の規模 (1課題あたり年間) ※ (間接経費を含まず)	委託研究開発 実施予定期間	採択 予定数
1	開発途上国・新興国等における医療 技術等実用化研究	初年度 11,500千円 (上限) 2~3年度23,000千円 (上限)	最長2年8カ月 令和5年8月 (予定) ~令和7年度末	0~2 課題
2	開発途上国・新興国等における医療 技術等実用化研究 ( <b>アフリカにおける実行可能性調査</b> )	9,200千円 (上限)	最長8カ月 令和5年8月 (予定) ~令和5年度末	0~1 課題

※ 委託研究開発費の規模等はおおよその目安です。委託研究開発費の規模及び新規採択課題数などについては、今後の状況等により変動することがあります。

## 成果目標

### ■ 公募課題1

- 医療ニーズのある疾患領域で、既存製品・保有技術等を基に、医療機器等（医療機器プログラムも含む）のニーズ把握・コンセプト作成・試作品作製を行い、開発、事業化すること。

### ■ 公募課題2

- アフリカを対象とし**、特定の医療機器・医療機器プログラムの展開予定先国において、臨床現場の観察を通じたニーズを特定し、**当該国への事業展開可能性**を明確にすること。

# 東南アジアにおける対象テーマ（本事業の医療ニーズ）



対象テーマ	医療ニーズ（詳細）	
疾病	<b>急速に広がるNCDへの対策</b>	東南アジア地域においては、生活水準の改善意図に伴い、急速な勢いで心血管疾患やがん、糖尿病・腎臓疾患等の非感染性疾患の割合が増えている。このような疾病構造の変化を受け、健康への関心が高まっている中で、積極的に予防に取り組む人も増加傾向にある。そのため、治療段階のみならず、予防段階からの介入を含めたソリューションが求められている。
	<b>NTDをはじめとした感染症対策</b>	東南アジア地域における感染症の疾病負担は減少傾向にある一方、結核、マラリア、HIV/AIDSや「顧みられない熱帯感染症」(NTDs)に加え、抗菌耐性菌(AMR)等の新たな課題も生じている。これら予防可能な感染症を早期発見し、管理するためのより高度な医療機器が、ますます必要になっている。
	<b>都市・産業化に伴う交通事故外傷・公害病への対応</b>	先進国と比較して、より社会環境の整備レベルが低いため、大気・環境等の環境汚染による疾病の増加(例：ぜんそく)、交通事故による骨折等の障害、労働・食品衛生上の傷病等が多くなっており、都市化・産業化に紐づく社会課題に対応する健康・医療対策が求められている。
医療制度	<b>不十分な医療インフラの下での医療提供</b>	東南アジア地域においては、先進国と比較して医療設備や医療従事者が全般的に不十分であり、その傾向は特に遠隔地や貧困層に強い。このため、こうしたインフラの不十分な環境においても効果的な医療提供を可能とする、コスト効率的なソリューションが求められている。
	<b>ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)の促進・維持</b>	ASEANの一部の国(タイ、マレーシア)ではUHCの導入が進んでいるものの、一部(インドネシア、ベトナム)ではまだ達成されていない。限られた医療財政の下、UHCの実現・維持のためには、BOPや所得の低い高齢者にもアクセス可能な低スペック・低コストのソリューションが求められている。
	<b>健康危機管理対策</b>	人類の脅威となるような感染症(例：COVID-19)の発生や災害時の医療等の対策は、東南アジアの多くの国で優先事項として国を挙げて進めてきたが、その結果には国により差がある。インドネシア等の一部の国では保健インフラやシステムが未だ弱い弱であり、こうした健康危機管理に資する効果的なソリューションが求められている。
	<b>医療のIT化</b>	東南アジア諸国ではHIS(Health Information System/健康情報システム)やEMR(Electronic Medical Record/電子医療記録)等の医療のIT化に向けたシステムの普及が国をあげて進められている。今後はこういったシステムへの需要が高まるだけでなく、患者・疾病データの蓄積を生かした質の高い診断等、新たな医療サービスが求められている。

# アフリカにおける対象テーマ (本事業の医療ニーズ)

対象テーマ

医療ニーズ (詳細)

疾病	対象テーマ	医療ニーズ (詳細)
疾病	妊婦・乳幼児の健康の改善	母子健康はアフリカにおいて最も緊急な対応が求められる公衆衛生課題の一つとして挙げられ、その傾向はコンゴ民主共和国等中央アフリカやケニア等東アフリカ、ガーナ等西アフリカで特に顕著である。アフリカで最も多い死亡要因は新生児死亡であり、加えて妊産婦死亡率は現在でもアフリカの女性の主要な死因の一つであることから、特に安全な出産や産前産後ケアへのニーズが高い。現地の医療環境や医療従事者のケイパビリティに合わせた産科・婦人科・新生児医療機器等の提供が求められている。
	エイズ・結核・マラリアをはじめとした感染症対策	エイズ、結核、マラリアは、合わせて15%程度の依然として公衆衛生上の重要な問題であり、特にモロッコ等北アフリカ以外のアフリカ諸国で深刻な負担となっている。また、これらの感染症の負荷は最貧困層、低学歴層、農村部に偏っており、死亡率や罹患率が高く、救命措置へのアクセスが限定されている状況にある。そのため、特にこれらのサブグループに向けた診断機器から人工透析などの治療機器等多様な医療機器を低価格帯で提供することが求められている。
	急速に広がるNCDへの対策	アフリカ、特にモロッコを筆頭とする北アフリカでは急激な経済成長に伴い生活習慣病や非感染性疾患の比重が増加している。しかし、このような高度な技術を要する非感染性疾患の診断・治療時への需要が増加する一方で、国内の医療環境整備は追いついておらず、国内で満たせない需要は医療ツーリズムというかたちで海外へと流出している。このように急増しているNCDに対応するため、国内での非感染性疾患の診断・治療を実施できる環境整備と医療従事者の傷病理解の醸成やケイパビリティ構築への需要が高まっている。
	都市化・産業化に伴う交通事故外傷・公害病への対応	急激な都市化・産業化を背景とした人口密度の増加に社会インフラの整備が追いついておらず、交通事故による骨折等の障害や死亡(特にコンゴ民主共和国やケニア等)やぜんそくの疾病負荷(特に南アフリカ等)が増えている。交通事故へ対応するための整形外科の治療器具や手術器具、適切なぜんそく診断や安価な治療の普及等に加え、都市化から生ずる社会課題の解決に資する包括的なソリューションが求められている。
医療制度	不十分な医療インフラの下での医療提供	アフリカ、特にモロッコ等北アフリカや南アフリカ以外のアフリカ諸国においては医療インフラ(人材、資材含め)が全般的に不十分であり、その結果として医療アウトカムも先進国に比べ大きな後れを取っている。また、南アフリカを筆頭に、公的・私立病院のサービスの質の差が広がっており、同一国内においても医療・健康格差が生じている。このため、インフラ・リソース不足が懸念される公的病院においても効果的な医療を提供するため、コスト効率的且つ未熟な医療環境でも使用可能なソリューションが求められている。
	未発達な保険制度による資金力不足	アフリカ諸国では必須保健サービスのカバー率が最も低い地域であり、特にコンゴ民主共和国等中央アフリカやケニア等東アフリカ、ガーナ等西アフリカでは大きく世界平均を下回っている。高い自己負担割合と国民の支払い能力の低い水準を背景に、BOPや所得の低い高齢者にもアクセス可能な低スペック・低コストのソリューションが求められている。
	健康危機管理対策	アフリカでは、世界のどの地域よりも多い、年間100件以上(感染症、洪水、干ばつ、紛争等)の健康に関連するの緊急事態が発生している。一方で、COVID-19を筆頭とした近年の緊急事態において、備え不足が露呈している。こうした健康危機管理に資する効果的なソリューションが求められている。



## R5公募要領

開発途上国・新興国等は、日本とは異なる医療・事業環境や公衆衛生上の課題を抱えており、医療ニーズ（図2、図3参照）や製品に対する医療現場のニーズも日本と異なる面がある。そこで、本事業では、こうした開発途上国・新興国等のニーズにあわせた医療機器等（医療機器プログラムも含む）の開発（課題）を公募します。

バイオデザイン等のデザインアプローチを採用し、医療現場における具体的な医療機器等（医療機器プログラムも含む）へのニーズの把握から製品コンセプトを作成し、試作品作製、評価までの製品開発を実施する。これにより、製品の設計の初期段階から臨床現場のニーズを取り入れ、途上国・新興国で必要とされている製品の開発が可能となる。

### 留意点

1. デザインアプローチを用いた研究開発を行います。  
デザインアプローチの詳細は以下を参照願います。

<https://www.amed.go.jp/content/000041654.pdf>

## R5公募要領

## 3.2.1 公募概要

## (2) 対象とするプロジェクト

図2、図3に示す東南アジア、アフリカにおける**医療ニーズ**（以下「対象テーマ」という。）に対応する**医療機器等**（**医療機器プログラムも含む**）について、開発初期段階（具体的な医療機器・医療機器プログラム等のニーズ把握・コンセプト作成・試作品作製段階）から

**医療ニーズのある疾患領域**で、

**既存製品、保有技術等**を基に開発します。

※ 日本国内向けを含めた先進国向け製品を、途上国・新興国のニーズに合わせて改良などを行わず、**そのまま販売する提案については、本事業の対象としない。**

## 留意点

1. 医療ニーズのある疾患領域で、既存製品、保有技術等を基に開発いたします。
2. そのまま販売する提案については、本事業の対象といたしません。

## R5公募要領

## 3.2.2 公募課題 1

## (4) 求められる成果

初年度：

- ターゲットとする領域で開発を進める上での事業戦略
- バイオデザイン等のデザインアプローチに基づいて開発途上国・新興国等から選択したクリニカルイメージン（臨床現場への徹底的な入り込みによる現場観察）の実施を希望する1か国の臨床現場にて保有技術にとらわれることなく関連領域も含めて広く観察することによりターゲットとする1疾患の臨床領域及び地域において特定したニーズ
- 医療現場の観察によって特定されたニーズと保有技術・想定していた要件とのギャップ分析の結果

2-3年度：

- 医療現場の観察によって特定されたニーズからギャップ分析の結果等に基づき優先順位付けされたニーズ
- 優先順位付けされたニーズにより策定された要求仕様に基づき作製した試作品とその現地での評価
- 試作品に関する事業性の評価（例：想定される商品の収益予測、競合環境の分析、知財管理、薬事承認申請に向けた大きなハードルの特定等）
- 作製、評価した試作品を基にした上市に至るまでの事業化戦略の策定と開発実施
- 必要な非臨床試験・臨床試験等と薬事申請の実施または計画策定
- 臨床的意義の明確化

# 説明事項

- 事業説明
- 今年度公募概要ご紹介（採択済み）
- 本事業が求める課題（今年度公募を例として）

**1 研究目的** → 本提案の重要性・必要性がわかるよう、**保有技術によって満たしたい現地ニーズの現状仮説、および、製品開発を進めるにあたって本事業（特にバイオデザイン等のデザインアプローチの活用）による支援の必要性**を明記。

**2 研究計画・方法** → 医療ニーズに対応するために、保有技術の現状に捉われず展開可能な既存と異なるアプローチを活用するための基本的な考え方を明記。尚、本事業では**中間目標・最終目標は決まっております、書き換えしないでください。**

**3 研究実績** → 研究開発代表者及び分担者の関連する学術論文・著書、特許権等知的財産権の取得及び申請状況等、当該技術・製品カテゴリにおける開発の経験・実績等を記載。

**4 研究費の応募・受入等の状況・エフォート** → 本事業へ十分なエフォートが割り当てられるか確認すべく応募中・採択中の研究費、その他活動のエフォートを明記。

**5 これまでに受けた研究費とその成果等** → 本研究の立案に関連する今までの研究費の明記。

## 6 特記事項

**1 研究目的** → 本提案の重要性・必要性がわかるよう、**保有技術によって満たしたい現地ニーズの現状仮説、および、製品開発を進めるにあたって本事業（特にバイオデザイン等のデザインアプローチの活用）による支援の必要性**を明記。

①**目的・ねらい**（400字～500字程度）

②**開発対象とする製品のニーズの解決**（500～700字程度）

③**製品開発による効果**（200～300字程度）

④**製品開発におけるバイオデザインの活用方法及び成果現時点での課題及び本事業を通じて特に解決が期待される点**（200～300字程度）

⑤**検証結果に対する対応**

「ニーズを検証し、テクノロジー、ビジネスモデルが変わる場合も、検証結果を開発に反映する。」への合意

## 1 研究目的

### ① 目的・ねらい (400字～500字程度)

本提案の重要性・必要性が明らかとなるよう、科学技術上の要請、社会的要請や経済、産業上の要請および、当該分野や関連分野の動向、疾病への対応状況と医療提供への現況について等事前調査結果を適宜含めて記載してください。

(例)

新興国・開発途上国で流行しているxxxxxxxは治療困難であり、適切な治療管理には「xx検査」が必要である。特に、世界保健機関（WHO）が治療経過観察の検査として強く推奨しているのは、xxxによるxxx検査ではなく、高感度かつ定量的評価が可能なxx検査である。しかし、xx検査は設備要求度とコストが高いため途上国での実施場所が限定され、xxxxという問題がある。

…xxでは、xx検査に代わるxxを開発してきた…(ニーズに合った機能の説明)

本事業により現地の要求に合わせた製品を開発し、新興国・途上国で実用化できれば、xxのxxxxの一助になると期待する。

○対象国で公衆衛生上課題となっている具体的な疾病

○診断・治療での具体的な課題

○ガイドラインや推奨の現状

○対象国での具体的なニーズ仮説

○保有技術のニーズへの対応状況

○本事業の必要性

○研究を通じて公衆衛生課題解決にどう貢献するか

## 1 研究目的

②開発対象とする製品のニーズの解決（500~700字程度）（下記抜粋）

解決が期待されるニーズ：

満たすべきニーズ ※一文で記載：途上国において、「どのような人に対し」、「どんな結果をもたらすために」、「何をどうしたいか」について、1文で端的かつ具体的に記述してください。現時点では仮説でも構いません。本提案により開発しようとする製品により解決が期待される開発途上国・新興国等における医療ニーズのある疾患領域を特定した上、より具体的なニーズについて記載してください。

ニーズを把握する必要性：ニーズを把握する必要性を事前調査結果に基づき記載してください。具体的なデータやヒアリング結果の内容・ソース元を記載してください

（例）

解決が期待されるニーズ：

満たすべきニーズ：新興国・開発途上国における**（疾病名）の治療成績を改善**するために、**既存のxx検査に代わる迅速・xxx・xxxな検査システム、特に、末端の簡易な検査室レベル**で実施可能な検査であることが求められる。

ニーズを把握する必要性：日本とは異なり、**（対象国）では世界x位の（疾病）負担国であり**（WHO統計）、主な検査場所は国内に分布した**xxxxのxxx検査施設となる**（対象国保健省レポート）。この施設において、**（施設要件）で検査実施可能か、（人材要件）で実施可能か**を把握する必要がある。

○どんな結果をもたらすために

△何をどうしたいか（「誰に」が不足）

◎どこまでやりたいか

○対象国での対象疾病負荷

○具体的な対象施設の定義・規模

◎現地でないと把握できないニーズの具体



## 1 研究目的 ④製品開発におけるバイオデザインの活用方法及び成果現時点での課題及び本事業を通じて特に解決が期待される点開発対象とする製品のニーズの解決（200~300字程度）

**本課題における本事業による支援の必要性：**本課題における本事業による支援の必要性について説明してください。

**現時点での課題：**提案された対象テーマにおける**医療機器の事業化に向けての現時点での課題**（例：現地の医療機関のアクセスがない、現地のKOLとのネットワークがない）を説明してください。

**本事業に対する期待：**本事業で特に期待する点（例：現地の医療機関への入り込み、バイオデザイン等デザインアプローチによるニーズの特定）を説明してください。また、**本事業のどのような要素が具体的に有用**と考えるか記載してください。

**本事業により期待される成果：**本事業で行うバイオデザイン等デザインアプローチを活用することでどのような成果が期待できるか説明してください。どこまで保有技術及び現状仮説を変更しうるか記載してください。

（例）

**本課題における本事業による支援の必要性：**特に（xxxといった課題のある検査）を、**現地の検査環境と操作者の手技レベルに合わせてxxx・xxxさせる必要**がある。

○現地の観察が必要となるニーズ把握に基づいた仮説

**現時点での課題：****国全体の検査室環境やxxx検査状況**を把握するKOLとのネットワークがなく、検査現場を視察して基礎データを収集するためのアクセスがない。

○何が具体的に情報として足りていないか

**本事業に対する期待：**現地の**医療機関（中央・群・保健所レベル等）におけるxxx検査の状況**と現場を観察することで、現場ニーズの特定を期待している。

◎現地の観察でしか得られない粒度の情報の明確化

**本事業により期待される成果：**xxxのリスクが回避され、**現地の使用者と報告様式に合わせた検査システム**が開発できる

○具体的にコンセプトをどう変更しうるかの方向性

- 開発途上国・新興国等における医療技術等実用化研究事業ホームページ開設  
<https://www.amed.go.jp/program/list/12/01/003.html>
- 成果報告会を毎年開催
- HPに成果報告書を毎年掲載
- 事業終了企業インタビューをYouTubeにアップ



株式会社メラン

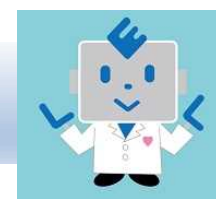
<https://youtu.be/9rC5T0WQ2ao>



日本光電

<https://youtu.be/z9pC8vizW-U>

# (ご案内)AMEDからの情報発信



## ○AMEDウェブサイト <https://www.amed.go.jp/index.html>

AMEDに関する基本情報の紹介の他、事業紹介、公募情報、イベントなど、さまざまな情報を掲載していますので、ご覧ください。



## ○公式Twitterアカウント **AMED 日本医療研究開発機構**

公募やイベントなどの情報をツイートしています。ぜひフォローお願いします！

>> アカウント (日本語) [https://twitter.com/AMED\\_officialJP](https://twitter.com/AMED_officialJP)  
(英語) [https://twitter.com/AMED\\_officialGL](https://twitter.com/AMED_officialGL)



## ○公式YouTubeチャンネル **AMEDチャンネル**

シンポジウムの動画などを紹介しています。ぜひチャンネル登録をお願いします！

>> チャンネル <https://www.youtube.com/@amed>



## ○メール配信サービス

公募やイベント開催に関する情報を、電子メールにてご希望の皆様にお送りしています。ぜひ配信登録をお願いします！

>> 登録フォーム <https://www.amed.go.jp/pr/mailmagazine.html>



## ○広報ウェブマガジン「AMED Pickup」

AMEDでどのような医療研究開発を推進しているかなど、わかりやすくご紹介していきます！ぜひフォローをお願いします！

>> サイト <https://amed-gov.note.jp/>

